

「ごあいさつ」

阿波あいネットの運営に当たり、平素より多大なご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

当ネットは、利用施設の皆様と徳島県のご支援により、全県単位の医療連携ネットワークとして画像連携の導入や施設数の増加など着実に機能および規模を拡充しています。これからも、退院時サマリーや診療情報提供書の文書連携など新しい機能充実に向け準備を進めて参ります。

さて、「Society 5.0」という用語をご存知でしょうか。現代社会はSociety4.0 に位置づけられ、Society1.0 の狩猟時代、2.0の農耕時代、3.0の工業時代を経て、人が情報にアクセスして利用する情報化社会になっています。これからはSociety5.0として、実社会からサイバー空間に多様な情報が集約・統合され、そこで人工知能（AI）を介して実社会へ最適に還元されることが期待されています。

医療におけるSociety5.0は、医療情報や生体情報に基づきAIシステムを介して健康状態の評価から快適な生活や最適な治療を提供する社会と考えられています。このような近未来において、阿波あいネットのような個人の分断された医療・健康情報を連携する基盤はかかせない存在となります。先行する海外では、国家単位や保険者単位で医療・健康情報が標準化され管理・活用されています。本邦では、小規模な医療連携基盤が多数存在し、その相互運用や規模の拡大は進んでいません。しかし、始まったばかりのマイナンバーに基づく個人の医療・健康情報を集約するマイナポータルやHL7-FHIRによる医療情報の標準化が普及すると、医療のデジタル化が飛躍的に進むと考えられます。その中で、当ネットは全県単位の複数の医療連携ネットワークを包含する新しい基盤であり、県外施設との連携も検討しています。また、当ネットは、マイナポータルや標準化システムとの連携を視野に入れ、時代にマッチした改良をめざしたいと思います。ただし、デジタル化技術は情報をつなぐツールに過ぎません。一人一人の健康と幸福のために、阿波あいネットが人と人、医療者と医療者がつながる地域に必要とされる基盤になるよう、本質を見誤らないで進んでいくことが大切と思っております。



副理事長 松久宗英

「第10回ID-Link研究会」

去る10月15日にID-Link研究会の第10回記念大会がID-Link発祥の地、函館で開催されました。医療インフラとしてのID-Linkが担う役割について、利用例、活用方法を挙げて、様々な視点からの発表がありました。

また、特別講演では日本医師会常任理事の長島公之先生から、「電子カルテ情報の共有・交換が広く行われるようになるまでの間は、地域医療情報連携ネットワーク（地連NW）も引き続き機能し、併存する」と記載されている医療DXビジョン2030について、言及がありました。この機会に既存の地連NWは新しい未来を検討する必要があり、その際に必要な視点として、1）地連NWの目的、有用性、効果、運用方法、財源の見直し（特に医療介護多職種連携機能）、2）「全国医療情報プラットフォーム」との連携、機能分担、インフラの活用、3）広域化、全国化、4）今後大きく利用が拡大する民間PHRとの連携、5）遠隔医療における活用、6）研究開発は地域医療政策に資するデータ提供などが考えられる、という発表がありました。

阿波あいネットでも、公共性と利便性を向上するために、利用施設や利用者の拡充、患者登録の推進だけでなく、今後の展開を検討する良い機会になりました。

阿波あいネット監事 野村友美



「近年の医療ICTの動向」

社会全般においてICTの導入は急速に進んでおり、医療分野でもICTの利活用が推進されています。医療分野ではICTの導入が他の分野と比較して遅れていると言われてはいますが、コロナ禍など社会的要因による影響もあり以下のようなICTの活用例の普及が進んでいます。

- ・ PCやスマートフォン、タブレットを用いた遠隔診療、オンライン診療
- ・ 電子処方箋やマイナンバーカードの保険証利用

阿波あいネットも、ICTを活用した仕組みの一つであるEHR（電子健康記録）です。阿波あいネットの目的は病院・診療所・薬局・介護施設などに散在する医療情報を統合し、地域医療のために共有することにあります。しかしながら、医療の質向上、効率化のためにICT化が求められるのは情報の共有だけにとどまりません。特にオンライン診療を始めとした遠隔医療はコロナの影響下において一般的に普及してきています。2020年4月に、初診も含めたオンライン診療が解禁されたことも、新しい動きのひとつです。従来は、初診では対面診療が原則で、オンライン診療は特定の疾患を対象にした2回目以降の診療でのみ認められていました。しかし、コロナ禍による受診控えを解消するために規制が緩和され初診を含めてオンライン診療が可能になりました。

加えて、オンラインでの服薬指導も解禁され、電子処方箋の義務化がスタートしたことで薬局においても大きな変化が生まれています。特に薬剤配送においてはAmazonが処方薬販売への参入を検討しているなど、世界的なICT企業が注目、投資しようとしています。

阿波あいネットの活用も、これら遠隔医療と組み合わせて活用することでより進んでいくことが想定されます。

阿波あいネット理事 玉木 悠

「事務局からのお知らせ」

第3回阿波あいネットセミナー開催のご案内

この度阿波あいネット利用を促進するために、全国で医療地域連携ネットワークを行われる先生と阿波あいネットの活用や更に進化するについて議論できる機会を作り、島根県まめネットの小阪先生のご協力のもと、Webでセミナーを開催させていただくこととなりました。

1. テーマ：**まめネットに学ぶICT地域医療連携**
講師：**小阪 真二 先生 島根県立中央病院 病院長**
2. QRコードより事前登録サイトにアクセス、URLでのアクセスはこちら
<https://forms.office.com/r/YGDZRBIG0j>
3. メールアドレスなど必要情報を入力し「送信」ボタンで登録
4. 登録したメールアドレスにZOOM案内のURLが届きます



- ※ **申込期限：12月1日(木)**
事前申込制（当日参加は出来ませんので、必ず事前にお申し込みください。）
- ※ **日本医師会生涯教育 カリキュラムコード（CC） 4, 9, 12 1.5単位**

阿波あいネット研修について

患者様からのお問い合わせに対して十分な対応ができていない事例が発生しておりますので、積極的な運用のため、端末の貸し出しやご利用方法の研修のご希望があればお気軽に事務局までお申し付けください。

徳島大学病院 病院情報センター
ICT地域連携プロジェクト室
阿波あいネット事務局

☎ : 088-633-9397 or 090-1558-5889
✉ : office@awainet.org
URL : <https://awainet.com/>